

性に影響することが示唆されました。タンパク質含量や糊化粘度にはほとんど差がありませんでした。地区別では、23年産米と24年産米で傾向が異なっており、さらなる検討が必要です。

**(6) 冬期湛水実施農業経営の現状と課題**

冬期湛水の先行的取組経営体の実態について、佐渡、宮城県大崎市、兵庫県豊岡市の3地域を比較したところ、①農地集積・冬期水利体制の必要性、②単収の下落・不安定化の傾向、③直販による高価格販売という特徴が共通してみられました。現時点では①と②の課題を③によって補償する構造となっており、地域的(①)・技術的(②)な課題の克服と、販売体制(③)のさらなる強化が重要と考えられます。

**(7) 消費者行動分析に基づく佐渡米販売戦略**

消費者ウェブ調査結果の分析により、圃場の生物量・減栽培培・食味評価が非常に高い「食味・生態系重視層」が、消費者の約3割を占めることがわかりました。この層が販売戦略上の重要なターゲットになると考えられます。また新潟産米と比較して「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」は高く評価されていますが、一方で「佐渡産米」の認知度は高くなく、食味や生態系配慮等の情報伝達が重要だと考えられます。

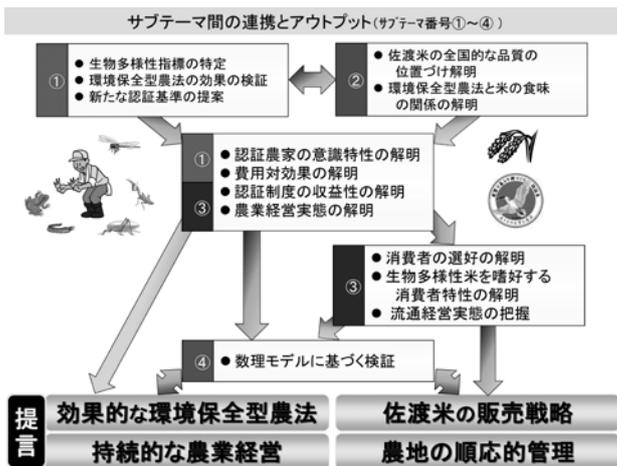
**(8) 農地の順応的管理のための数理モデルデザイン**

本講座でこれまでに得られた知見・成果に基づいて、「生態系」と「人間の選択(行動)」を連結した数理モデルを構築しました。その結果、環境と経済の双方

にプラスの効果をもたらすためには、水田における生物量増加や環境保全型農業の取組みに対する助成制度だけでは十分でなく、認証米の販売戦略の高度化や米の品質向上等、認証米の購入量を増加させる対策が重要であることがわかりました。

**◆研究成果のとりまとめ・政策提言**

平成25年度は本講座の最終年度にあたります。現場での調査研究を継続するとともに、最終とりまとめ・提言に向けて検討を進めていく予定です。引き続き皆さまからご協力とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



**佐渡動植物生息実態調査**

佐渡にはトキだけでなく、固有種のサドガエルやサドモグラなど、さまざまな

動植物が生息します。豊かな生物相は佐渡の魅力・資源です。佐渡市では平成24年度に、生物多様性の保全と持続的利活用について示した「生物多様性佐渡戦略」を策定、生物多様性の保全と利活用のためさまざまな施策を推進しています。

生物多様性の保全・利活用には、生物目録の整備が必要です。いつ・どこで、どんな生物が記録されたか、写真や標本はあるか、といった情報を共通データベースにまとめ、市民が利用できるようにすることが、参加型保全策の重要な土台です。これまで佐渡島の生物について多くの研究がなされていますが、情報は論文や報告等に散在していました。また、分類群によって調査がほとんど行われていません。そのため、佐渡市から「佐渡動植物生息実態調査」業務の委託を新潟大学が受け、情報を一つにまとめると同時に、動植物を調査しています。

調査対象分類群は、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、クモ類、陸水産大型甲殻類(エビ・カニの仲間)、陸産・淡水産貝類、海産動植物、維管束植物(種子植物とシダ類)、コケ類、菌(キノコ)類と多岐にわたり、各分類群の専門家が担当、分類群ごとに既存の文献情報の収集と現地調査を行います。委託期間は、平成24年8月から平成27年2月までです。平成24年度は、事業開始が8月であったため、文献調査しか実施できなかった分類群もあります。他方、現地調査でいくつかの重要な知見が得られている分類群もあります。例えば、佐渡で越冬する森林性鳥類の種構成は、大佐渡では本州中北部に近いが、小佐渡では西日本に近くなっ

ていました。魚類調査で捕獲されたクロヨシノボリは、県内でもごく限られた地域にしか生息が知られず、佐渡では35年ぶりの確認でした。オオムラサキが確認されたり、県内初記録のクモ類が記録されたり、新発見もありました。調べるほどに佐渡の動植物の面白さ・豊かさが明らかになるでしょう。

本事業では、研究者だけでなく市民にも佐渡の動植物について知ってもらうための基礎情報(データベース)構築を目指しています。得られた情報をどう活用するか、基礎になる議論も行っています。本事業の成果をもとにして、今後、佐渡版レッドデータブックを作成する計画です。

平成25年度からは、多くの分類群で現地調査実施の予定で、調査員は腕章をして調査にあたります。本事業の調査員が、皆さまのご近隣にお邪魔することもあるかと思えます。本事業に関して、皆さまのご意見も承りたいと考えています。どうぞご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



オオムラサキの幼虫



国蝶 オオムラサキ (大脇撮影)

※国の準絶滅危惧種であるオオムラサキの幼虫が佐渡で確認されました。佐渡での記録はありましたが、なかなか確認できなかったのが、貴重な生息の証拠です。